

開催にあたって

日本生命財団は昭和54年に人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを願って、日本生命により設立されました。

設立以来、助成の柱のひとつとして、「人間活動と環境保全との調和に関する研究」をテーマとして、環境問題に関する研究助成を行っております。毎年実施してきた研究助成は、これまでに**31回、累計で965件、助成総額24億4千7百万円**に達しています。

当財団はこれらの研究がさらに進展し、研究者間の交流や情報交換が円滑に行われることを願い、併せてこのテーマに関心をもたれる方々の意見交換の場を提供するため、「助成研究ワークショップ」を開催いたしておりますが、このワークショップも今回で第25回目を迎えることとなりました。

今回のワークショップでは、「人間活動と環境保全との調和に関する研究—都市と環境の調和が持続する社会をめざして—」を募集課題とする学際的総合研究助成に採択された研究チームから、その研究成果をご報告いただきます。

過密に利用されている東京湾では、その恵みを将来にわたって享受するために、総合的な沿岸域管理が求められています。しかし、その実施には、①沿岸漁業の位置づけ ②協議過程の重要性の認識 ③科学—教育—政策の統合が課題として想定されます。

今回発表いたします研究では、上記の課題に対して、環境教育実践者、保全活動実践者、漁業者、学生などとともに、テーマA「河口域生態系学習プログラムのデザイン」、テーマB「沿岸漁場利用におけるコンフリクト・マネージメント」、テーマC「大学-地域間協働による社会的学びの場のモデル・デザイン」の3つの側面からアプローチいたします。この過程で実施したワークショップ等から、(1) 地域住民が自然生態系・環境に関する知識を共有し、(2) 資源利用をめぐるコンフリクトについて理解を共有し、(3) 沿岸漁業を基礎とした沿岸域管理のしくみを協働で構築する といったプロセス・モデルを提示し、持続可能な東京湾の利用に向けて地域から提言を行います。

まず、代表研究者の東京海洋大学の河野 博教授から、研究の趣旨を説明いただき、次に「東京湾」の全体像を石丸 隆教授に解説いただきます。そして、研究の成果を「東京湾を科学する」、「東京湾を体験する」、「東京湾を考える」という3つの分野について合計9名の方々から報告をしていただきます。

その後、東京海洋大学の河野 博教授の進行で、活動を共にされている地域の方々との総合討論をおこないます。

今回のワークショップの開催が、「自然環境と調和した社会の実現」のために私たちが今取り組むべきことをご理解いただき、これからの環境・地域・社会の再生・保全に取り組むための第一歩を踏み出すきっかけとなっていただくことを強く願っています。